

科技高 いきもの記

Vol.70 2023.3.9

生物教員 佐藤龍平

ヒキガエルの繁殖期①

冬眠からの目覚め



冬眠から目覚めて池に向かうヒキガエルたち メスは途中で出会ったオスを背負ったまま池に向かう。この状態で他のオスに出会うと、ガマ合戦（オス同士の喧嘩）が始まる。

さぁ！今年もヒキガエルの繁殖シーズンがやってきたぞ！この胸の高鳴り！昂ぶり！…恐らく全く伝わらないだろう。いつもは一人で自己満足の世界に浸っていたのだが、今年は生徒と一緒に池に群がるカエルたちを見ることができた。わずか1週間程度しか続かない繁殖シーズンを見せてあげることができて良かった。

冬眠していたカエルたちは、この時期に一齐に目覚めて池に向かう。前から気になっているのが、「目覚めの時期をどう決めているのか？」ってことだ。去年と一昨年の観察から、最高気温が15°C前後にならないと冬眠から覚めないというのは何となく分かっていた。今年はそれを検証してやるぞ！と思っていたのだが、困ったことに今年は一度暖かくなったと思いきや急激に気温が下がり、また上がり…と全然安定してくれなかったのが、目覚めの時期を予想するのがとても難しかった。2/7（最高15°C）に15匹ほどのヒキガエルの目覚めを確認したが、その後の気温の低下で再び姿を消し（2/10は雪が降った）、2/12にまた暖かくなって（17°C）、数十匹が陸上を歩いていたかと思ったら、また寒くなってカエルの数が減り、最終的には2/19

（18.5°C）に繁殖期の最大のピークを迎えた。過去のメモを見ると、繁殖期のピークは2021年は2/10頃、2022年は3/3頃だった。概ね2月中旬頃から3月初旬頃なのだが、結構ムラがあるもんなんだなあ。やっぱり気温がかなり大事そうだと分かったし、寒い日でも雨が降れば出てくることも分かった（2/13は低温（10°C）だったが雨だったのでたくさんのカエルがいた）。

カエルの目覚めのタイミングなんて、およそ他人様の役に立つことなんて無いし、1年で1週間しか見られないなんて調べるにはコスパが悪すぎる。でも純粋に面白い！知りたい！と思うことを調べるのが楽しいんだよね、と思ったりもする。今年は一寒四温に振り回されたが、次の暖かい日がピークか?! 「寒いけど雨の日」はどうなるんだ?!などと、色々考えを巡らせながら観察するのはとても楽しかった。



ねぐらの穴から外の様子を伺っている。「今日はちょっと寒いから出るのやめようかなあ…」とか言ってそう。



左手でもう一匹を押しさえつけているオス。メスだと思って近づいたのに、オスだったからすぐに離れていった。オスは冬眠から覚めると、我先にとメスを探し回る。